

令和2年3月31日

久留米市議会議長 様

久留米市城南町15番地3

会派名 公明党議員団

代表者名 田中功一 印

政務活動費事業実績報告書

久留米市議会政務活動費の交付に関する条例第8条の規定に基づき、下記のとおり報告します。

記

1 事業の完了年月日 令和2年3月31日 (R元 年度分)

2 事業実績の概要

・国内行政視察・研修

・令和元年8月21日～23日

多摩市・金沢市

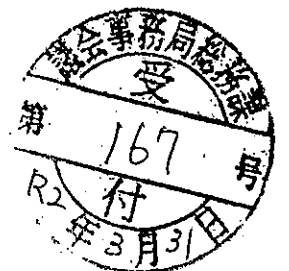
・令和元年10月30日～11月1日

東京都中央区地方議員研究会

・広報費

令和2年1月1日

久留米市議会 公明党議員団ニ一ス



視察報告書

平成元年 9月4日

会派名 公明党議員団

代表者 田中 功一 様

会派名 公明党議員団

報告者 田中 貴子



政務活動のため視察調査を実施したので、その概要を報告いたします。

実施年月日	令和1年8月21日
視察地	東京都多摩市
参加議員名	田中功一、塚本弘道、山下尚、太田佳子、田中貴子、井上寛
視察項目	決算事業評価について
視察の目的	「決算と予算の連動」をどのように取り組まれているかを視察することで久留米市への導入の参考にするため。
当該視察地を選定した理由	多摩市議会は2010年制定の「多摩市議会基本条例」で「決算と予算の連動」を定め、会派ごとに評価シートで事業や施策を評価されていることが大変参考になると思い選定した。
説明者	議会事務局 池田みかほ次長 多摩市議会公明党議員団（三階道雄、荒谷隆見、渡辺しんじ、本間としえ）
説明内容	「決算と予算の連動」を実現するため、議長を除く全議員で構成する「予算決算特別委員会」を6月定例会で設置し、9月定例会での決算審査の結果が翌年度以降の予算に反映されるようにしている。翌年の3月定例会までを任期としている。決算審査の内容が、翌年度以降の予算編成にきちんと反映されるよう、議員個人や会派による審査に加え、予算決算特別委員会の中に4つの常任委員会を単位とする4つの分科会を設け、事業や施策を評価。平成27年からは、複数の事業を含む施策単位での評価を行ってきたが、平成29年からは、選定テーマを設定して評価を行ってきた。今年度は新たな取り組みとして、施策という枠組みにとらわれず、設定したテーマに基づいて対象事業を選定し、評価を行う。個々の議員や会派の指摘ではなく、分科会で協議して議会で議決することで、議会の正式な意思ということになり、次年度予算へも反映されやすい。
視察の成果と久留米市へ期待される効果	毎年度、検証をして事業評価のあり方を見直し、より良い「決算と予算の連動」が図れるよう試行錯誤されながら取り組まれている。「行政経営報告書」を見れば経年の予算決算の流れが一目瞭然で、これは是非とも久留米市にも取り入れたい形式であると思った。最初は、作り上げるまでに大変な労力を必要とするが、この形式が出来上がれば今後スムーズな予算決算の流れができると思う。

視察報告書

令和元年9月4日

会派名 公明党議員団

代表者 田中 功一 様

会派名 公明党議員団

報告者 井上 寛



政務活動のため視察調査を実施したので、その概要を報告いたします。

実施年月日	令和元年8月23日(金)
視察地	石川県金沢市
参加議員名	田中功一、塚本弘道、山下尚、太田佳子、田中貴子、井上寛
視察項目	(1) 金沢市の住宅施策について (2) 空き家対策の取り組みについて
視察の目的	地方創生の大きな課題である人口減少対策については様々な取り組みが必要である。働く場所の確保といった労働環境整備等による人口流出に歯止めをかける施策だけでなく、大都市圏に住む人を呼び込むための住宅施策をより積極的に取り組むことが重要である。「住みやすさ日本一」を目指す久留米市としてはあらゆる可能性を模索しなければならない。
当該視察地を選定した理由	石川県金沢市は中核市であり北陸地方の中心都市であるが、東京や名古屋、大阪などの大都市圏に比較的近いため、労働者人口の流出があり、人口の自然減も相まって人口減少の問題に直面している。そのような中、住宅施策によるUIJターンの推進や増加する空き家対策などに積極的に取り組まれ、一定の効果をあげている。久留米市も人口減少や少子高齢化の対策として、住環境の整備に対しさらに力を入れていく必要がある。
説明者	金沢市都市整備局定住促進部 空き家活用推進室室長(兼)住宅政策課課長補佐 山田和代

<p>説明内容</p>	<p>(1) 住宅施策について 平成13年に中心市街地の定住促進についての条例を制定し、若年層や多子世帯などに手厚い住宅取得支援（最大150万円の補助）を行ってきたが、平成28年からさらに拡充すると共に郊外部では移住者に限定した支援制度を確立。また手厚い支援を行うかわりに「軒の出のある瓦屋根」「塗り壁の和室」「緑化」を建築条件とすることで、古都金沢市としての景観を守るまちづくりも合わせて推進してきた。本年3月には住生活基本計画に則った定住促進条例改正を行い、定住促進と移住促進を強化することに加えて、家族の絆強化と地域コミュニティの活性化を基本理念に掲げ、住宅取得支援制度の見直しを行った。</p> <p>(2) 空き家対策の取り組みについて 金沢市内の空き家のうち約3割が市街中心部に集中。戦災に遭っていないこともあり市街中心部の道路は狭小であり利便性に乏しい事が理由で家が売れないという問題がある。このような事情もあり、金沢市の空き家の管理及び管理に関する条例（平成28年）においては空き家をうまく活用することを重視し、使われていない施設を町内の利便的な施設に変えていく、地域コミュニティの活性化につなげる施策に力を入れている。同時に空き家バンクの拡充も行い、今年度の実績として登録数442件・成約数420件（成約率95%）を実現している。さらに空き家リフォーム費補助金（空き家バンク物件の購入者対象）などの補助制度の設置や、空き家の管理・活用啓発のために司法書士会や宅建協会と連携したセミナーや個別相談会を行っている。</p>
<p>視察の成果と久留米市へ期待される効果</p>	<p>人口減少や少子高齢化の問題は全国の自治体が抱える問題である。本市においても東京や福岡市といった大都市圏への人口流出の問題や少子高齢化問題は例外ではない。今回視察に伺った金沢市は北陸地方の中心都市であり、日本有数の観光都市でもあるが、そういった好条件に甘えることなく、人口流出や少子高齢化への対策に十数年前から積極的にまた先進的に取り組んでいる。とくに住民のニーズと行政の狙いとがうまく噛み合うように努めていることが伺える。中でも空き家バンクの登録数が多いことが注目されるが、これは山田室長自ら市内を巡回し空き家を見つけては所有者を探し出してバンク登録への啓発を行ってきたという積極的な働きかけの賜物である。住みやすさ日本一を目指す本市としても、ダイハツや資生堂の誘致によって期待される効果だけでなく、現在の施策に満足することなくより積極的に推進していかなければならない。住民のニーズをしっかりと捉えながら将来の久留米市像をより明確に描いた上で住宅政策・空き家対策を進める必要があると考える。</p>

研修報告書

令和元年11月1日

会派名 公明党議員団

代表者 田中 功一 様

会派名 公明党議員団

報告者 井上 寛



政務活動のための研修会に参加したので、その概要を報告いたします。

研修年月日	令和元年10月31日
開催地	東京都
参加議員名	田中功一、山下尚、太田佳子、田中貴子、井上寛
研修項目	医学博士が教える認知症対策
説明者	日本公共経営研究所 代表 宮本正一 (元寝屋川市議会議長/医学博士)
説明内容	<ul style="list-style-type: none">・認知症と脳についての基礎知識・厚生労働省資料から読み解く介護保険制度・介護費用と保険料の推移・認知症施策推進総合戦略について・認知症予防と議会質問のポイント
感想	<p>わが国は2009年に超高齢社会となり、2025年には高齢者率が約30%に、2060年には約40%に上昇することが予想されている。この点において認知症対策をどのように取り進むかは市としても重要な課題である。</p> <p>認知症施策を行う上で最も大切なことは、認知症の病理メカニズムを正しく理解しておくことである。認知症とは脳の働きが低下して引き起こされる様々な症状のことであるが、その原因の約50%はアルツハイマー病によるもので短期記憶力を司る海馬を中心に脳が委縮して引き起こされる。その他レビー小体というタンパク質が出現して脳神経細胞が減少するレビー小体型（約20%）や脳血管障害によるダメージで引き起こされる脳血管性認知症（約15%）などがある。</p> <p>最も多いアルツハイマー型の患者については短期記憶力が低下しているものの長期記憶は失われていないため、過去の記憶に基づいた行動を取る傾向にある。いわゆる「徘徊」は目的もなく彷徨うとされているが、本人にとっては幼少時などの過去の記憶を頼りに目的をもって行動していると講師の先生は指摘している。また短期記憶を失っているだけであり自尊心までも失っている訳ではないため、本人に対して拘束したり差別的な言葉をかけることは絶対にならないとも指摘されている。</p>

感想

つまり認知症患者に接する場合には他者と同じように個人の尊厳を大切にすることは必定であり、同時に患者個々人の過去の記憶を知った上でケアすることが必要であるとされる(このことで徘徊が無くなった事例もある)。実践としては、接する人が長期記憶を知っているとケアする方法が分かるため「記憶の扉ノート」を作成し、日常生活動作の習得時である10代での喜怒哀楽したことの記憶や好きな音楽・テレビ・漫画・タレント等を記載しておくことを推奨している。

認知症は治療は難しいが予防や進行を遅らせることは出来ると言われている。そのために必要なのは食事(健脳食)・刺激付与(咀嚼や運動)・休脳である。とくに米(ブドウ糖)とビタミンB1の補給は大切である。日常生活における認知症予防のための知識を広く周知していくことも大切である。

認知症対策の国の施策としては、認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)が策定されており、骨子としては前述のように正しく認知症を理解し認知症の人の意思を尊重すること、そして住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指すことである。市としては介護保険事業を通して認知症患者の生活をしっかりと支えていくことと、普段からの地域コミュニティとの関わりを重視していくこと。そして高度医療都市ともいえる久留米市独自の療養体制の研究や支援をしていく必要があると考える。